

接続 必ず接続先の機器に付属の取扱説明書もあわせてご覧ください。

モービルカラーTV

取り付けと接続

お買上げいただきありがとうございます。

警告 電気製品は安全のための注意事項を守らないと、火災や人身事故になることがあります。

この「取り付けと接続」および別冊の取扱説明書には、事故を防ぐための重要な注意事項と製品の取り扱い方を示しています。この「取り付けと接続」および別冊の取扱説明書をよくお読みのうえ、製品を安全にお使いください。お読みになったあとは、いつでも見られるところに必ず保管してください。

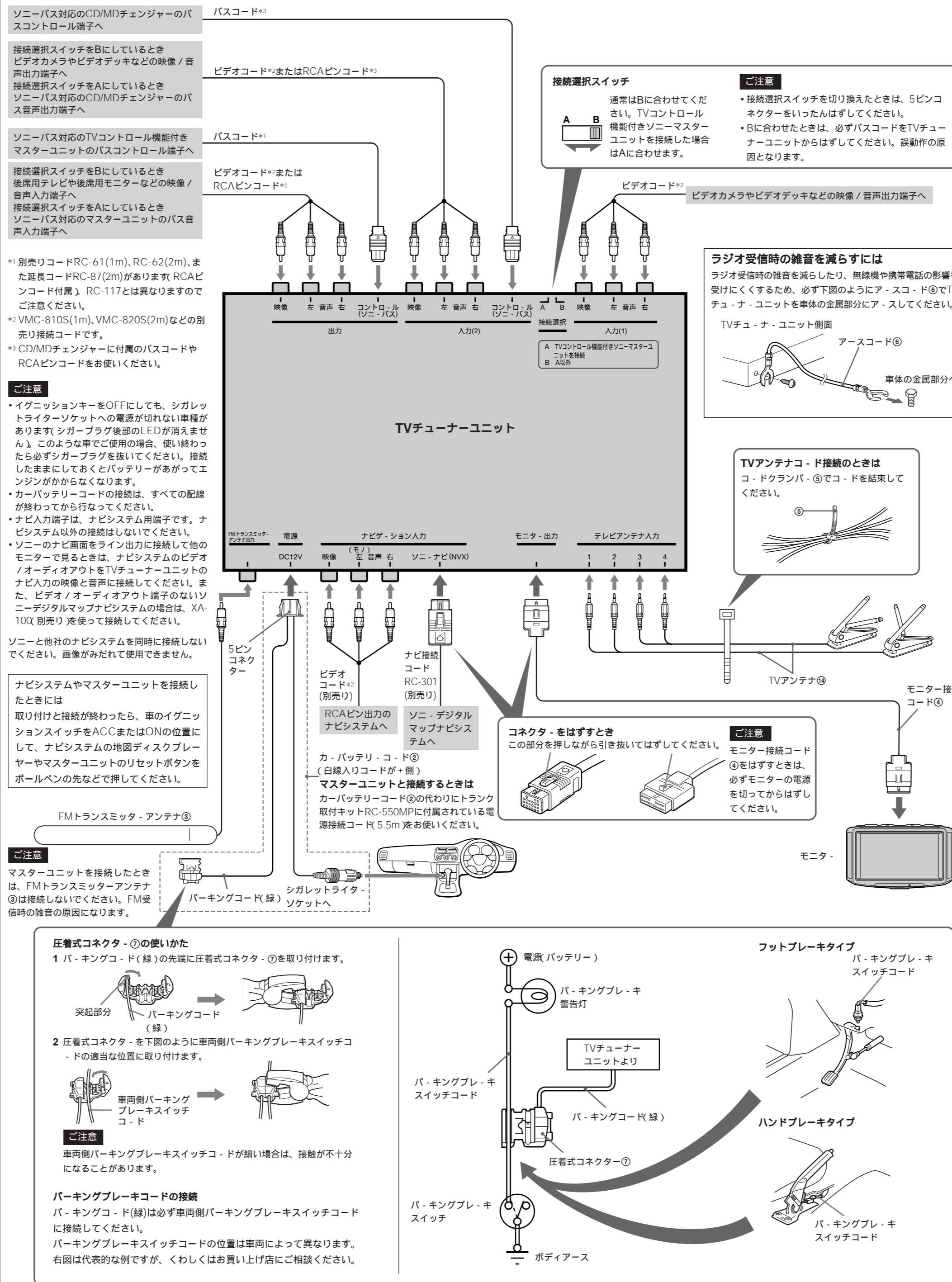
取り付けはお買上げ店に依頼する
本機取り付けは車種や年式により異なり、専門知識が必要です。万一、ご自分で取り付けるときは、この「取り付けと接続」に従って、正しく取り付けください。正しい取り付けをしないと、火災や感電または自動車の損傷の原因となります。



XTL-770W

Sony Corporation ©1997 Printed in Japan

取り付け/接続部品(付属)



警告 安全のために

警告表示の意味
「取り付けと接続」および取扱説明書、製品では、次のような表示をしています。表示の内容をよく理解してから本文をお読みください。

警告 この表示の注意事項を守らないと、火災・感電により死亡や大けがなど人身事故の原因となります。

注意 この表示の注意事項を守らないと、感電やその他の事故によりけがをしたり自動車に損害を与えたりすることがあります。

注意を促す記号
火災 感電
行為を禁止する記号
禁止 分解禁止

警告 火災 感電
下記の注意を守らないと**火災・感電**により**死亡や大けが**の原因となります。

本機はDC12Vマイナスアース車専用です。大型トラックや寒冷地仕様のディーゼル車など、24V車を使用すると火災などの原因となります。

配線作業中は、バッテリーのマイナス端子をはずす
マイナス端子をつないだまま作業をすると、ショートにより感電の原因となります。



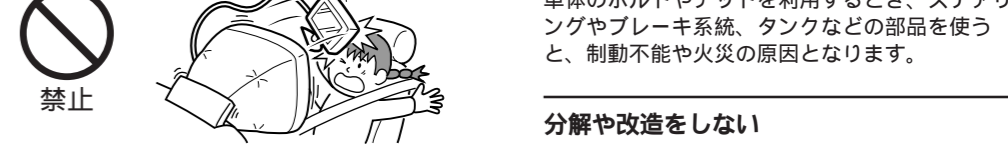
前方の視界を妨げる場所に取り付けけない
前方の視界の妨げになると、事故やけがの原因となります。

パイプ類、タンク、電気配線などを傷つけない
火災の原因となります。車体に穴を開けて取り付けるときは、パイプ類、タンク電気配線などの位置を確認してください。



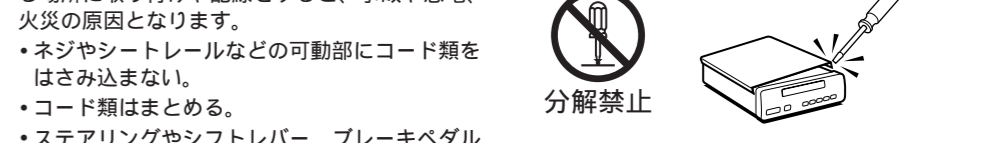
助手席用エアバッグシステムの動作を妨げないように取り付ける
動作の妨げになる場所に取り付けると、エアバッグが正常に働かず、けがの原因となります。

ステアリングやブレーキ系統、タンクなどにある車の性能を維持するための部品を使わない
車体のボルトやナットを利用するとき、ステアリングやブレーキ系統、タンクなどの部品を使うと、制動不能や火災の原因となります。

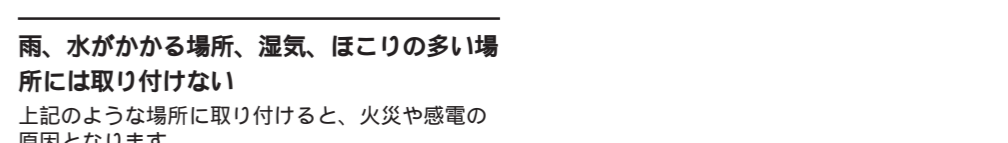


分解や改造をしない
火災や感電、事故の原因となります。電源リード線の被覆を切って、他の機器の電源を取ると、リード線の電流容量を超えてしまいます。内部の点検や修理はお買上げ店またはソニーサービス窓口にご依頼ください。

規定容量のヒューズを使う
ヒューズを交換するときは、必ずヒューズに記された規定容量のアンペア数をお使いください。規定容量を超えるヒューズを使うと、火災の原因となります。



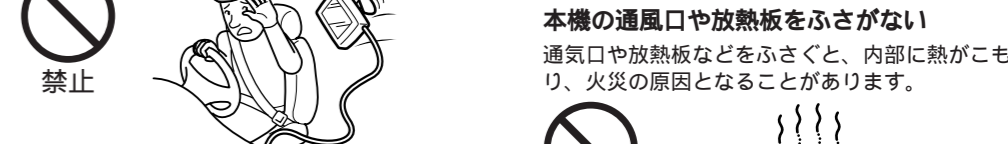
雨、水がかかる場所、湿気、ほこりの多い場所には取り付けけない
上記のような場所に取り付けると、火災や感電の原因となります。



注意 下記の注意を守らないと**けが**をしたり**自動車に損害**を与えたりすることがあります。

安定した場所に取り付ける
振動の多いところや、天井などに取り付けると、製品が動く、落ちるなどにより、事故やけがの原因となることがあります。

付属の部品で正しく取り付ける
他の部品を使うと、機器の内部を傷つける、しっかり固定できないなどにより、火災やけがの原因となることがあります。



アンテナは車体からはみ出さないよう取り付ける
歩行者などに接触し、事故の原因となることがあります。

本機の通風口や放熱板をふさがない
通気口や放熱板などをふさぐと、内部に熱がこもり、火災の原因となることがあります。



アンテナは確実に両面テープで固定する
車体や歩行者などに接触し、事故の原因となることがあります。



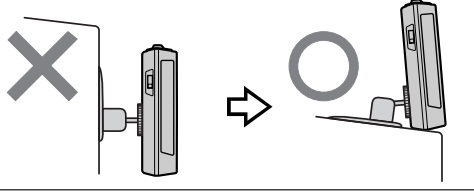
取り付け

モニターを取り付ける前に

本機のモニターは安全性を重視して設計されていますが、正しい位置に確実に取り付けを行わないと事故の原因となり大変危険です。取り付けの前に、必ず下記事項の確認を行ってください。また、助手席用エアバッグシステムの動作を妨げないように取り付けてください。

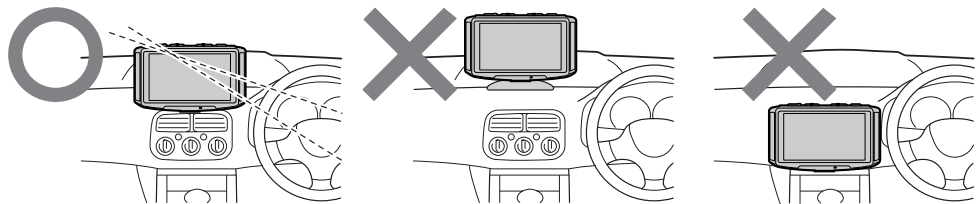
ご注意

不安定な取り付けは絶対にお避けください。走行中にはずれることがあり大変危険です。



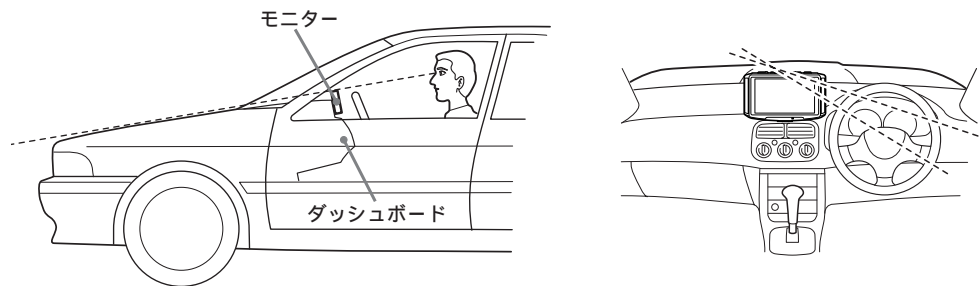
取り付け位置

前方視界を妨げることがなく、また運転中極端に視線を動かさずにすむようにダッシュボードのなるべく高い位置に取り付けてください。



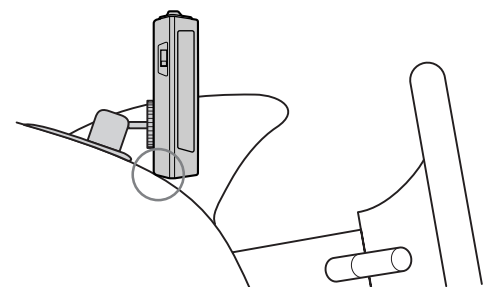
取り付け位置のポイント

- 運転者から見たときに、モニターがボンネットの先端よりも上に出ない。
- 極端に視線を下げる位置に設定しない。



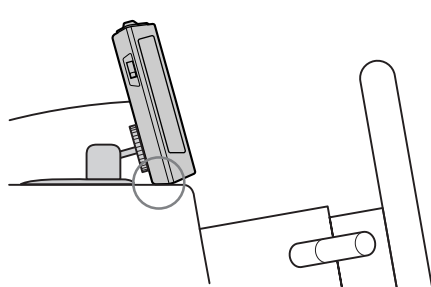
ダッシュボードが曲面の場合

モニター底面をダッシュボードにあてて固定する。



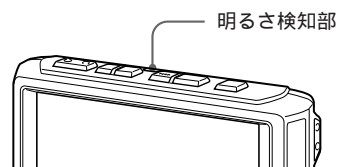
ダッシュボードが平面の場合

モニター底面をダッシュボードの平面にあてて固定する。



ご注意

- モニターは極端に低温または高温になる場所には取り付けしないでください(キャビネットの変形や液晶パネルの故障の原因になります)。また、直射日光下の車内はかなりの高温になりますので駐車中にはモニターカバー②で覆うなどして、日光が直接当たらないようにしてください。
- モニターを取り付けるときは明るさ検知部を覆ったり、ふさいだりしないようにして取り付けてください。

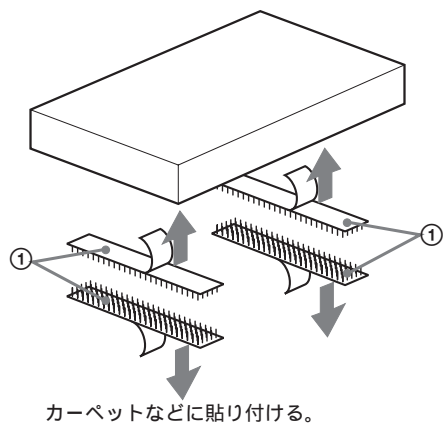


TVチューナーユニットの取り付け

助手席の下などに取り付けてください。

マジックテープ①でカーペットなどに取り付ける。

トランクルームに取り付けるときは、別売りのトランク取付キットRC-550MP
 ・モニター延長コード(4 m)
 ・電源接続コード(5.5 m)
 をご使用ください。



ご注意

- 直射日光が当たる場所やヒーターの熱風を直接受ける場所など温度が極端に高いところへの取り付けは避けてください。
- ナビゲーションシステムと組み合わせてお使いになるときは、TVチューナーユニットと地図ディスクプレーヤー(別売り)は、できるだけ離して設置してください。ナビゲーションシステムの近くに設置するとテレビ画像に影響が出る可能性があります。

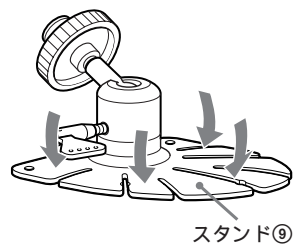
モニターの取り付け

「モニターを取り付ける前に」の項目をご覧のうえ、設置しようとする場所で正しい取り付けができることを確認してから取り付けを行ってください。

ご注意

モニターを取り付けるときは必ず付属のスタンド⑨をお使いください。

- 1 **ダッシュボードの形状に合わせて、スタンド⑨を曲げる。**
 曲げすぎてスタンドが浮かないようにご注意ください。

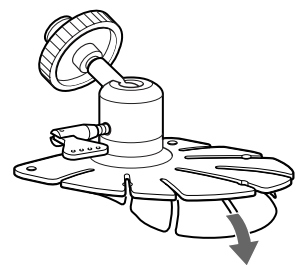


- 2 **クリーニングクロス⑫で取り付け面の汚れを取る。**

- 3 **両面テープのはくり紙をはがし、貼り付ける。**

ご注意

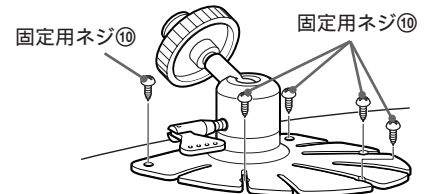
- 取り付け面の表面温度が低い(20°C以下)と両面テープの接着力が弱くなるので、ヒーターなどで温めてから貼り付けてください。また、24時間以上経ってからモニターの取り付けを行ってください。
- 取り付けたあとに両面テープをはがすと接着力が弱くなり危険です。十分に位置を決めてから確実に取り付けてください。
- 取り外すときは、取り付け面を温めてからゆっくりはがしてください。



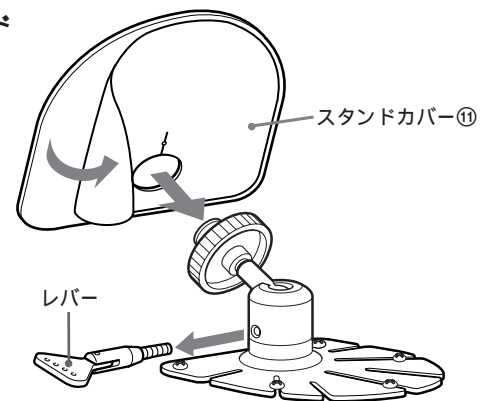
- 4 **固定用ネジ⑩で固定する。**

ご注意

取り付けた状態でネジの先端がダッシュボード内部の配線などに当たっていないことを確認してください。

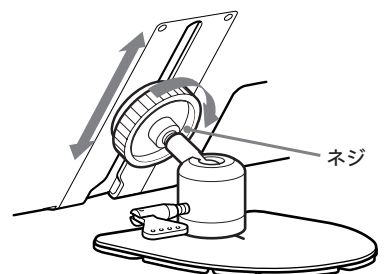


- 5 **レバーをいったんはずして、スタンドカバー⑪を接着する。**



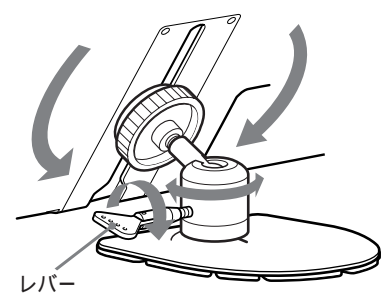
- 6 **モニター背面のみぞにスタンドのネジを差し込み、高さを決める。**

車の振動によるぐらつきを防止するため、モニターの底面がダッシュボードにあたるように高さを調節してください。調節後はネジを締めて固定します。



- 7 **レバーをゆるめて角度を調節する。**

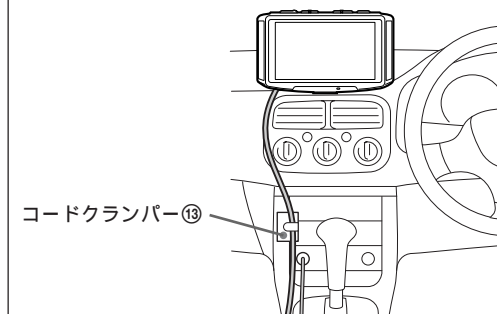
調節後はレバーをしっかり締めて固定します。



コードの処理について

取り付けと接続が終わったら、コードは運転の邪魔にならないようにまとめてください。コードがシフトレバーなどにからまると、非常に危険です。

助手席側にコードクランパー⑬で固定してください。



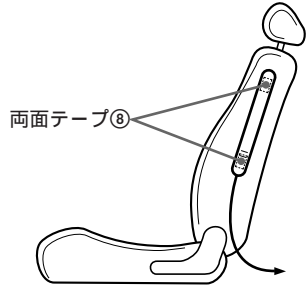
ご注意

- ドアやシート下のレールにコードがかからないようにしてください。コードがはさまって断線してしまうおそれがあります。
- ブレーキランプやライト、ホーン、ウィンカーなどすべての電装品が正しく動作することを確認してください。

FMトランスミッターアンテナの取り付け

運転の妨げにならない場所に取り付けてください。
コードは乗り降りの妨げにならないように処理してください。

両面テープ⑧でシート側面などに取り付ける。



ご注意

- 取り付けるときは電源をOFFにしてから行ってください。
- 放送局の送信アンテナに近い場所や車両のFMアンテナの位置、断熱ガラスを用いた車両では良好に受信できない場合があります。
- 出力はステレオです。

FMトランスミッターの動作確認をする

付属のFMトランスミッターアンテナを接続したときは、カーオーディオからテレビの音声が出力されることを確認してください。

くわしくは取扱説明書の「カーオーディオで音声を聞く」(17ページ)をご覧ください。

TVアンテナについて

付属のアンテナはリアウインドウ取り付け専用タイプです。

ご注意

- アンテナはテープの剥がれがなく、確実に固定されているか使用前に必ず確認してください。
- アンテナ取り付け後はネジの取り付け状態を時々点検し、緩みのある場合は増し締めしてください。
- 自動洗車機の使用は避けてください。
- アンテナ本体およびアンテナエレメント、ケーブルをアルコールやベンジン、シンナー、ガソリン、ワックスなどで拭かないでください(変形や破損の原因となります)。
- 車のラジオ用アンテナやパーソナル無線、アマチュア無線、自動車電話などのアンテナが設置されている場合は、それらの影響を受ける場合があります。十分な確認のうえ、アンテナの位置を変更するなどして離して取り付けてください。

- カーオーディオのラジオ用アンテナがリアウインドウプリントアンテナの場合は、AMラジオ受信時に雑音が入ることがあります。このようなときは、アンテナの位置を変えるなどしてAMラジオに影響のないところへ取り付けてください。
- 次のような場所では映りにくくなる場合があります。
 1. ビルとビルの間
 2. 高圧線や送電線付近
 3. 飛行機が近くを飛んでいる場合
 4. 電車が近くを走行している場合
 5. 山中や放送局から遠い場所
 6. トンネル内
 7. ラジオ放送やアマチュア無線局の送信アンテナ付近

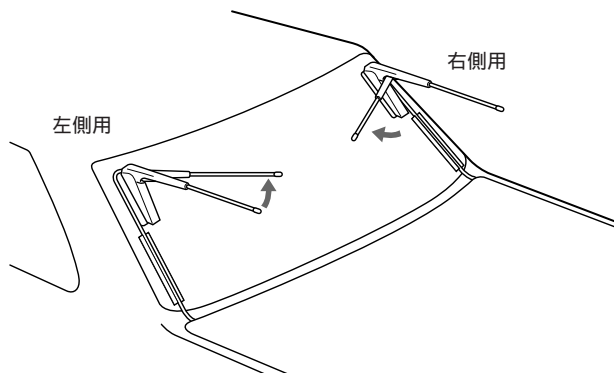
TVアンテナの取り付け

アンテナを取り付ける前に

- アンテナエレメントが車体より出ない場所を選んでください。車体より出ていると目に当たるなどして大変危険です。
- アンテナエレメントが車体およびリアトランクに当たらない場所に設置してください。
- アンテナエレメントを広げたときに、お互いが当たらない位置に設置してください。アンテナエレメントが当たるとノイズが出る原因となります。
- ガラス曲面がきつく取り付け金具がガラス面に合わない場合は、はがれる危険がありますのでなるべく平らな部分に貼りつけてください。
- 取り付け金具を貼り付ける場合は、取り付け面に水気があると接着力が低下し、はがれる危険性があります。湿気(雨や霧時など)の高いときは取り付け面を十分に乾燥させてください。

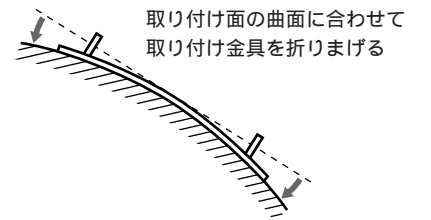
- 取り付け面の温度が低いときは接着力を上げるため車内ヒーターやリアウインドデフォグガー、ドライヤーなどを使用して温めてから貼り付けてください。
- アンテナ取り付け後、すぐに走行してもさしつかえありませんが24時間以内に水をかけたり、雨にあてたり、アンテナに力を加えるようなことはしないでください。
- アンテナには左側用と右側用があります。アンテナの左右を間違えないようご注意ください。

取り付け例



取り付けかた

- 1 不織布⑨にクリーナー液⑳を染みこませ、貼り付け面に付着している油やワックス、ほこりなどの汚れを拭きとる。クリーナー液が乾いたら水で洗い流し、乾いた布で乾拭きする。
- 2 アンテナから取り付け金具をはずし、貼り付け面に合わせて折り曲げる。
取り付け金具と貼り付け面の間にすき間がないことを確認してください。
- 3 取り付け金具裏面のはくり紙をはがして貼り付ける。
接着面に手を触れたり、貼り直しをすると接着力が低下しますのでご注意ください。

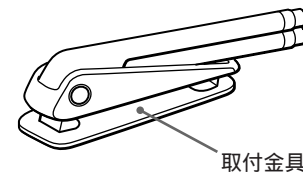


アンテナの使いかた

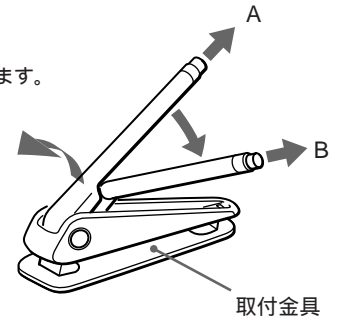
アンテナ本体を起こしてからエレメントAおよびBの各段をいっぱいにはばして、エレメントBを内側へ倒します。

ご注意

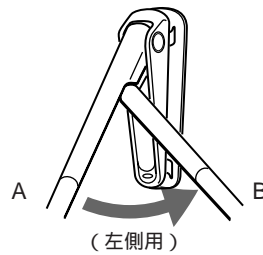
取り付け場所によってはアンテナの性能が劣化する場合があります。



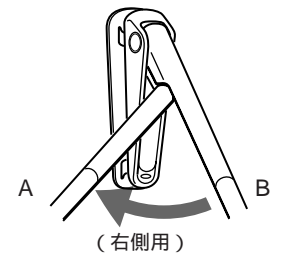
取付金具



取付金具



(左側用)



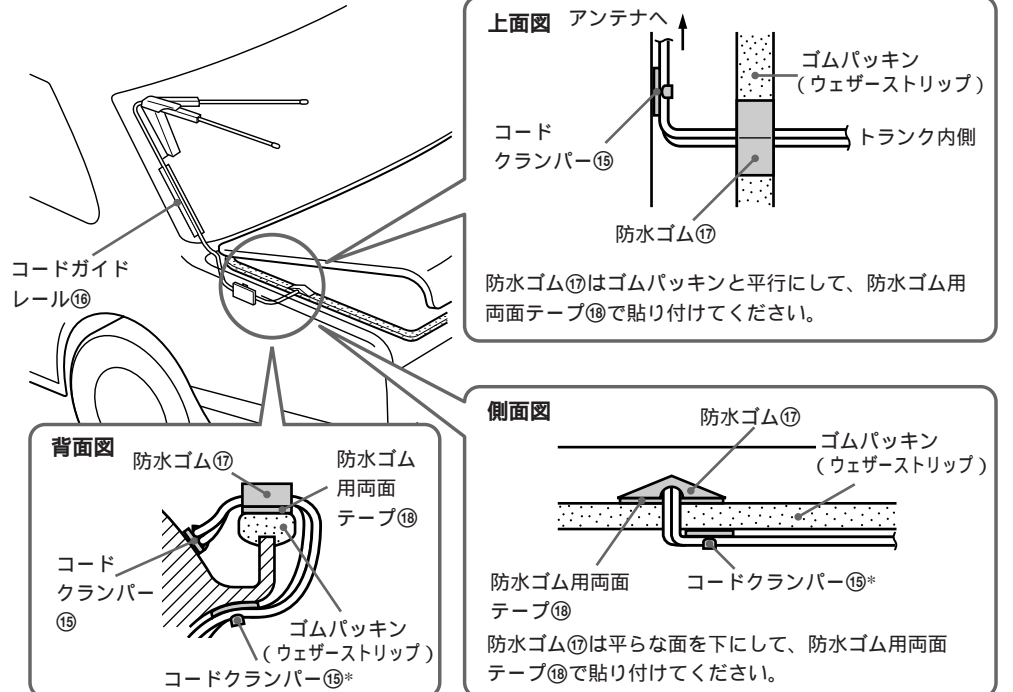
(右側用)

アンテナコードの配線

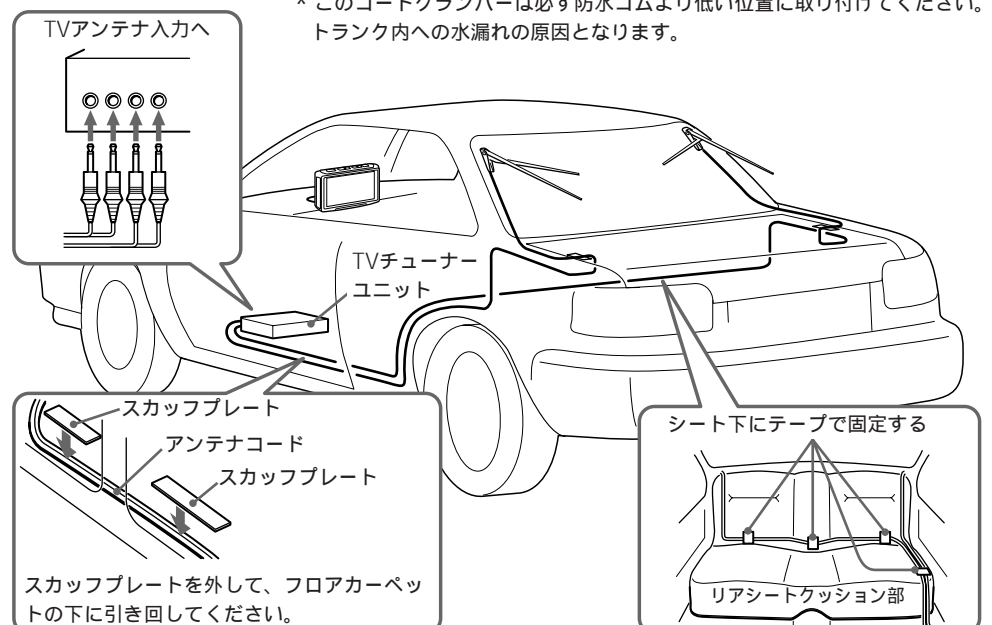
配線をする前に

- アンテナコードの配線位置は高熱部を避けてください。
- 車の雑音を受ける場合がありますのでコードは車側の配線類から離して設置し、配線処理も確実に行ってください。
- 雨水などの侵入を防止するため、コードの車室内への配線には十分注意してください。

ケーブルの配線図



* このコードクランパーは必ず防水ゴムより低い位置に取り付けてください。トランク内への水漏れの原因となります。



スcaffプレートを外して、フロアカーベットの下の引き回してください。

シート下にテープで固定する

リアシートクッション部